

建築学系建築学コース 学修課程

建築学は良い建築と都市・環境をつくるための「学術」「技術」「芸術」を三位一体とし、人々のより美しく安全で快適な生活の実現を目指す総合的な学問体系である。建築学系では、建築と都市・環境に関わる基礎的専門知識および幅広い理工系専門基礎学力を有し、柔軟で自由な発想、思考、創造力、倫理観を持ちながら、最先端の建築・都市空間を創造するとともに、国際的な視野に基づいて環境・社会問題の解決に貢献できる人材を養成することを目的とし、建築学を中心とする専門教育を行う。

建築学コースでは、学士課程で身に付けた幅広い教養の上に、建築学における建築意匠、建築史、建築計画、構造・材料、環境・設備、施工のうちの特定分野をより深く修得する。具体的には基盤となる学問分野を高度な水準で履修する「授業科目」と、高度技術者として必須の知識と素養を身につける「研究指導」によって学修課程を構成している。この過程を経て建築学に関する高度な専門知識と技術、ならびに、豊かな教養と国際コミュニケーション能力を修得し、各分野におけるリーダーとしての自覚を持ち、国際的にも活躍できる高度な技術者ならびに研究者を養成する。

【修士課程】

人材養成の目的

建築学における基本学理を構成する体系的な専門知識、幅広い理工系専門基礎学力を有し、これらを用いて科学・技術の専門家として最先端の建築・都市空間を創造するとともに、国際的な視野に基づいて環境・社会問題の解決に貢献できる人材を養成することを目的とする。

学修目標

本課程では、上記の目的の達成のために、次のような能力の修得を学修目標としている。

- ・ 建築学に関わる研究、創作、技術開発において専門知識を活用して実践に導く能力
- ・ 建築学の深奥を究めようとする探究力
- ・ 建築学以外の研究を統合し、新しい研究や創作の分野を創造する能力
- ・ 国際的な視野に基づき研究、創作、技術開発における潮流を理解し体系化する能力
- ・ 国際的に通用するコミュニケーション基礎力

学修内容

本課程では、「学修目標」で記載した「修得する能力」を身に付けるために、次のような内容の学修を行う。

A) 建築学分野の専門基礎学修

選択可能な準必修科目による建築学の学修および選択可能な推奨科目による都市・環境工学、エンジニアリングデザイン学の学修および応用

B) 建築学の応用学修

専門基礎科目の習得に基づき、豊富な専門選択科目による理論の応用を学ぶ学修

C) 広い視野を養い、主体的に進める学修

学生自らがテーマを設定し研究・設計を行う講究、実習、実験、定期的オリエンテーション、専門相談教員との対面修学指導、ゼミなどを通じ、主体的に取り組む力をつける学修

D) 社会との関わりを迫体験する学修

社会で活躍する講師陣や、インターンシップ科目を通しての実務体験学修や技術者倫理の学修

E) コミュニケーション能力の強化学修

学士特定課題研究の論文作成に要求される文書化力と、ゼミ・ワークショップ・国際会議等を通じた発表力の養成学修

修了要件

本コースの修士課程を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。

1. 34 単位以上を大学院授業科目（400 及び 500 番台）から修得していること。
2. 本コースで指定された授業科目において、次の要件を満たすこと。
 - ・ 講究科目を 8 単位、修得していること。
 - ・ 建築学コース専門科目を 12 単位以上修得していること。
 - ・ 文系教養科目のうち 400 番台を 2 単位以上、500 番台の科目 1 単位以上、キャリア科目から 2 単位以上を含み合計 5 単位以上修得していること。
 - ・ コース標準学修課程以外の専門科目又は研究関連科目を 2 単位以上修得していること。
3. 修士論文審査及び最終試験に合格すること

表M1 に本コースにおける授業科目区分と修士課程修了に必要な単位数を示す。必要単位数は科目区分ごと、また科目群ごとに指定され、「必修科目単位」欄及び「選択科目単位」欄には科目選択にあたっての注記がある。「学修内容との関連」欄には科目と関連する学修内容を示す。履修申告にあたっては、科目と学修内容の関係を十分理解すること。

表M1 建築学コース修士課程修了要件

科目区分		必修科目単位	選択科目単位	単位数	学修内容との関連	備考
教養科目群	文系教養科目		・ 400 番台から 2 単位以上 ・ 500 番台から 1 単位以上	5 単位以上	C	
	キャリア科目		2 単位以上		C, E	後述の GA を原則として全て満たすこと。
	その他				C	
専門科目群	講究科目	建築学講究 S1 建築学講究 F1 建築学講究 S2 建築学講究 F2 を各 2 単位, 合計 8 単位		コース標準学 修課程の専門 科目群から 20 単位以上	C	
	研究関連科目				D	
	専門科目		12 単位以上		A, B, C, E	
	コース標準学 修課程以外の 専門科目又は 研究関連科目			コース標準学 修課程以外の 専門科目又は 研究関連科目 から 2 単位以上	C	
修了単位合計		上記の条件を満たし、34 単位以上修得すること				

【備考】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究関連科目について、2 単位を超える修得単位分は 34 単位の修了要件には含まない。 ただし、コース標準学修課程以外の研究関連科目を除く。 ・ 文系教養科目、キャリア科目の詳細は、「IV. 教養科目群履修案内」のそれぞれの章を参照すること。 ・ 外国人留学生が受講可能である「日本語・日本文化科目」の授業科目を修得した場合、対応する番台の文系教養科目としてみなすことができる。

授業科目

表M2 に本コースの修士課程における専門科目群の授業科目を示す。表右端の備考欄にコース名が記載されている科目については、本コースが指定する他コースの専門科目等を示し、修得した場合、「科目区分」欄に記載された、本コースの標準学修課程の「専門科目」、「研究関連科目」として取り扱われる。

表M2 建築学コース修士課程専門科目群

科目区分		科目コード	科目名		単位数	身に付ける力	学修内容	備考
講 究 科 目	400 番台	ARC. Z491. R	R ◎	建築学講究 S1 (Seminar in Architecture and Building Engineering S1)	0-2-0	1, 3, 5	C	講義言語は研究室による
		ARC. Z492. R	R ◎	建築学講究 F1 (Seminar in Architecture and Building Engineering F1)	0-2-0	1, 3, 5	C	講義言語は研究室による
	500 番台	ARC. Z591. R	R ◎	建築学講究 S2 (Seminar in Architecture and Building Engineering S2)	0-2-0	1, 3, 5	C	講義言語は研究室による
		ARC. Z592. R	R ◎	建築学講究 F2 (Seminar in Architecture and Building Engineering F2)	0-2-0	1, 3, 5	C	講義言語は研究室による
研 究 関 連 科 目	400 番台	ARC. A405. L	L 選 択	建築設計プラクティス S1A (Architectural Design Practice S1A)	0-0-2	1, 3, 5	D	
		ARC. A406. L	L 選 択	建築設計プラクティス S1B (Architectural Design Practice S1B)	0-0-4	1, 3, 5	D	
		ARC. A407. L	L 選 択	建築設計プラクティス F1A (Architectural Design Practice F1A)	0-0-2	1, 3, 5	D	
		ARC. A408. L	L 選 択	建築設計プラクティス F1B (Architectural Design Practice F1B)	0-0-4	1, 3, 5	D	
	500 番台	ARC. A505. L	L 選 択	建築設計プラクティス S2A (Architectural Design Practice S2A)	0-0-2	1, 3, 5	D	
		ARC. A506. L	L 選 択	建築設計プラクティス S2B (Architectural Design Practice S2B)	0-0-4	1, 3, 5	D	
		ARC. A507. L	L 選 択	建築設計プラクティス F2A (Architectural Design Practice F2A)	0-0-2	1, 3, 5	D	
		ARC. A508. L	L 選 択	建築設計プラクティス F2B (Architectural Design Practice F2B)	0-0-4	1, 3, 5	D	
専 門 科 目	400 番台	ARC. S441. L	L 選 択	★ Dynamics of Structures 0 (建築構造物の動力学)	2-0-0	1, 4, 5	A, B	都市・環境学コース開講科目 (UDE. S401) 0 奇数年度：英語開講 E 偶数年度：日本語開講
		ARC. S442. L	L	★ Nonlinear Behavior of Concrete	2-0-0	1, 2, 5	A, B	都市・環境学コース開講科

		選 択	and Concrete Members (非線形コンクリート特論)				目 (UDE. S402)
ARC. S444. L	L	★ 選 択	Passive-control Structures and Base-isolated Structures against Earthquakes (制振・免震構造特論)	2-0-0	1	A, B	都市・環境学コース開講科 目 (UDE. S404)
ARC. S445. L	L	★ 選 択	Post-earthquake Damage Evaluation and Rehabilitation of Steel Structures (被災鉄骨造建物の損傷評価と 補修設計)	2-0-0	1, 5	A, B	都市・環境学コース開講科 目 (UDE. S405)
ARC. A401. L	L	選 択	建築学特別実習 S1 (Exercise in Architectural Design and Planning S1)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実験 S1 を履修 する場合には履修不可
ARC. A402. L	L	選 択	建築学特別実習 F1 (Exercise in Architectural Design and Planning F1)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実験 F1 を履修 する場合には履修不可
ARC. A403. L	L	選 択	建築学特別実験 S1 (Experiment on Building Engineering S1)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実習 S1 を履修 する場合には履修不可
ARC. A404. L	L	選 択	建築学特別実験 F1 (Experiment on Building Engineering F1)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実習 F1 を履修 する場合には履修不可
ARC. D401. L	L	★ 選 択	History of Architecture <input type="checkbox"/> (建築史特論)	2-0-0	2, 3, 4, 5	A, B	
ARC. D402. L	L	★ 選 択	Architectural Preservation <input type="checkbox"/> and Renovation (建築保存設計特論)	2-0-0	1, 2, 4, 5	A, B	
ARC. D403. L	L	★ 選 択	Architectural Workshop 1 (建築ワークショップ第一)	1-1-0	1, 2	A, B	
ARC. D404. L	L	★ 選 択	Architectural Tour (建築史特別実習)	0-0-1	1, 2	A, B	
ARC. D421. L	L	★ 選 択	Architectural Design Studio I (建築意匠設計第一)	0-2-0	1, 2, 3, 5	A, B	
ARC. D422. L	L	★ 選 択	Architectural Design Studio II (建築意匠設計第二)	0-2-0	1, 2, 3, 5	A, B	
ARC. D423. L	L	★ 選 択	Architectural Design Studio III (建築意匠設計第三)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	

ARC. D424. L	L 選 択	★	Theory of Architectural Space and Planning (建築空間設計特別演習)	1-1-0	1, 3	A, B	
ARC. D441. L	L 選 択	★ □	Passive Solar Design (パッシブデザイン特論)	2-0-0	1, 2, 3	A, B	
ARC. D442. L	L 選 択	□	建築プログラム特論 (Architectural Programming)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	
ARC. D443. L	L 選 択	★ □	Structural Planning in Architecture (建築構造デザイン特論)	1-0-0	1, 3, 5	A, B	奇数年度開講
ARC. D444. L	L 選 択	□	建築ディテール特論 (Architectural Detail)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	
ARC. D445. L	L 選 択	□	建築意匠特論 (Theory of Architectural Design I)	2-0-0	1, 3, 5	A, B	
ARC. D446. L	L 選 択	★ □	Theory of Architectural Design II (建築構想設計特論)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	
ARC. D447. L	L 選 択	★ □	Architectural Theory for Urban Space (都市環境設計特論)	2-0-0	1, 3	A, B	
ARC. D448. L	L 選 択	★	Environment Design in Japan (日本の環境デザイン)	1-0-0	1, 2, 5	B	土木工学コース開講科目 (CVE. N421)
ARC. D462. L	L 選 択	★	Architectural Behaviorology2 (建築ふるまい学2)	1-1-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	
ARC. E401. L	L 選 択	□	建築環境設備学特論 (Advanced Course on Environmental Engineering and Building Services)	2-0-0	1, 2, 3	A, B	
ARC. E402. L	L 選 択	□	空気調和設備特論 (Advanced Theories in Air Conditioning)	1-0-0	1, 4	A, B	
ARC. E403. L	L 選 択	□	給排水・衛生設備特論 (Advanced Theories in Water Supply and Drainage)	1-0-0	1, 4	A, B	
ARC. E421. L	L 選 択	□	環境保全工学第一 (Environmental Preservation Engineering I)	1-0-0	1, 2	A, B	偶数年度開講
ARC. E422. L	L	□	環境保全工学第二	1-0-0	1, 2	A, B	奇数年度開講

	選 択		(Environmental Preservation Engineering II)				
ARC. E423. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	空気清浄特論 (Air Quality Engineering)	2-0-0	1, 4, 5	A, B	
ARC. E424. L	L 選 択	★ 0 <input type="checkbox"/>	Design Theory of Architectural Visual Environment (建築の視環境設計)	1-0-0	1, 4	A, B	0 奇数年度：英語開講 E 偶数年度：日本語開講
ARC. E425. L	L 選 択	★ 0 <input type="checkbox"/>	Evaluation and Design of Thermal Environment (熱環境の評価と設計)	1-0-0	1, 4, 5	A, B	0 奇数年度：英語開講 E 偶数年度：日本語開講
ARC. P401. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	建築計画学特論第一 (Theories in Architectural Planning I)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	偶数年度開講
ARC. P402. L	L 選 択		建築計画学演習 (Advanced Exercise in Architectural Planning)	0-2-0	1, 3, 4, 5	A, B	偶数年度開講
ARC. P421. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	施設計画学特論第一 (Theories in Facility Planning I)	2-0-0	1, 2, 4, 5	A, B	
ARC. P422. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	施設計画学特論第二 (Theories in Facility Planning II)	2-0-0	1, 3, 4, 5	A, B	奇数年度開講
ARC. P423. L	L 選 択		施設計画学演習 (Advanced Exercise in Facility Planning)	0-2-0	1, 3, 5	A, B	
ARC. P441. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	空間計画学特論第一 (Theories in Urban Analysis and Planning I)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	
ARC. P442. L	L 選 択	★ 0 <input type="checkbox"/>	Theories in Urban Analysis and Planning II (空間計画学特論第二)	2-0-0	1, 2, 5	A, B	0 奇数年度：英語開講 E 偶数年度：日本語開講
ARC. S401. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	建築材料・構法特論 (Advanced Theory of Building Materials and Construction)	2-0-0	1, 5	A, B	
ARC. S402. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	鉄骨構造特論 (Steel Structure)	2-0-0	1, 4, 5	A, B	
ARC. S403. L	L 選 択	★ 0 <input type="checkbox"/>	Advanced Course on Design of Prestressed Concrete Structure (PC 構造設計特論)	2-0-0	1, 5	A, B	0 奇数年度：英語開講 E 偶数年度：日本語開講
ARC. S404. L	L 選	<input type="checkbox"/>	複合構造特論 (Composite Structure)	2-0-0	1	A, B	

		択						
	ARC. S421. L	L 選 択	★ E <input type="checkbox"/>	Applied Building Structural Design (応用構造設計特論)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	E 偶数年度：英語開講 O 奇数年度：日本語開講
	ARC. S422. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	構造デザイン実践論 (Structural Design Practice)	2-0-0	1, 3, 4, 5	A, B	
	ARC. S424. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	地盤地震工学特論 (Advanced Geometrical Engineering)	2-0-0	1, 5	A, B	
500 番台	ARC. S541. L	L 選 択	★	Disaster Mitigation for Building Structures (建築防災特論)	2-0-0	1, 2, 5	A, B	都市・環境学コース開講科 目 (UDE. S501)
	ARC. A501. L	L 選 択		建築学特別実習 S2 (Exercise in Architectural Design and Planning S2)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実験 S2 を履修 する場合には履修不可
	ARC. A502. L	L 選 択		建築学特別実習 F2 (Exercise in Architectural Design and Planning F2)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実験 F2 を履修 する場合には履修不可
	ARC. A503. L	L 選 択		建築学特別実験 S2 (Experiment on Building Engineering S2)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実習 S2 を履修 する場合には履修不可
	ARC. A504. L	L 選 択		建築学特別実験 F2 (Experiment on Building Engineering F2)	0-0-1	1, 3, 5	C	建築学特別実習 F2 を履修 する場合には履修不可
	ARC. D521. L	L 選 択	★	Architectural Workshop 2 (建築ワークショップ第二)	0-0-2	1, 2, 3, 5	E	
	ARC. E501. L	L 選 択		建築設備設計演習 (Advanced Exercise in Building Services)	0-2-0	1, 4, 5	A, B	
	ARC. P501. L	L 選 択	★ O <input type="checkbox"/>	Theories in Architectural Planning II (建築計画学特論第二)	2-0-0	1, 2, 3, 4, 5	A, B	奇数年度開講 O 奇数年度：英語開講
	ARC. S501. L	L 選 択	<input type="checkbox"/>	シェル構造特論 (Shell Structures)	2-0-0	1, 5	A, B	奇数年度開講

- ・◎：必修科目，○選択必修科目，★英語で授業を行う科目，O：奇数年度英語開講科目，E：偶数年度英語開講科目
- ・□：学位プログラムとして特別に設けた教育課程「環境エネルギー協創教育課程」に対応する科目を表す。
- ・身に着ける力：1，専門力 2，教養力 3，コミュニケーション力 4，展開力（探究力又は設定力） 5，展開力（実践力又は解決力）
- ・備考：他）▲▲コース開講科目（カッコ内は開講元のコースにおける科目コード）
- ・科目コードにおける「分野コード」は次の通り。（ABC.D400.R の「D」の項目）A:共通科目群，D:建築史・建築意匠学，P:建築計画学，S:建築構造学・建築材料学，E:建築環境工学・建築設備学，Z:講究科目

本コースの修士課程修了要件に記されるキャリア科目については、「IV.教養科目群履修案内ーキャリア科目」の表 MA-1 に示されている Graduate Attributes (GA)を原則として全て満たし、2単位以上の単位を修得しなければならない。GA の修得状況については、修了時にコースで判定する。複数の GA が対応する科目については、当該科目の単位を修得することでその科目に対応する全ての GA を満たしたものとみなされる。

この GA を修得するために、キャリア科目に加えて、キャリア科目としてみなすことが出来る専門科目として、表M3の科目が用意されている。

なお、対応科目をキャリア科目として修了要件に含めた場合、専門科目として修了要件に含めることが出来ないの
で留意すること。

【参考】 キャリア科目の履修案内より

表 MA-1 修士課程学生に求められる Graduate Attributes とは、次のとおりです。

COM : 自らのキャリアプランを明確に描き、その実現に必要な能力を、社会との関係を含めて認識できる

C1M : 学術・研究における誠実性について理解し、自身の専門能力を学術・科学技術の発展に活用し、専門能力が異なる
他者と共同して課題解決に貢献できる

表M3 建築学コース修士課程キャリア科目対応科目

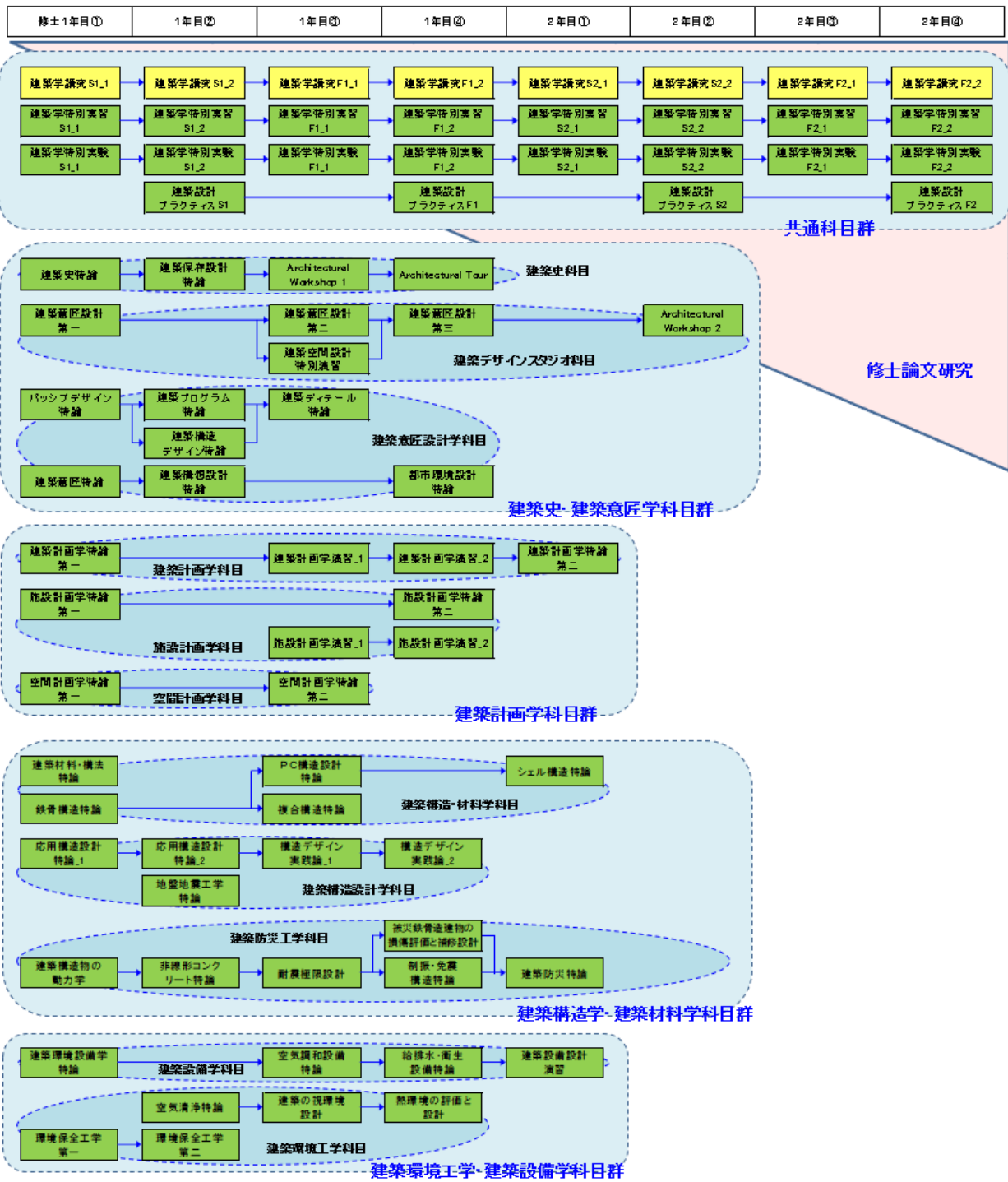
対応科目 区分	科目コード	科目名	単位数	対応する GA	学修 内容	備考
キャリア科目として みなすことが出 来る専門科目	ARC. A405. L	建築設計プラクティス S1A (Architectural Design Practice S1A)	0-0-2	C1M	D	
	ARC. A406. L	建築設計プラクティス S1B (Architectural Design Practice S1B)	0-0-4	C1M	D	
	ARC. A407. L	建築設計プラクティス F1A (Architectural Design Practice F1A)	0-0-2	C1M	D	
	ARC. A408. L	建築設計プラクティス F1B (Architectural Design Practice F1B)	0-0-4	C1M	D	
	ARC. A505. L	建築設計プラクティス S2A (Architectural Design Practice S2A)	0-0-2	C1M	D	
	ARC. A506. L	建築設計プラクティス S2B (Architectural Design Practice S2B)	0-0-4	C1M	D	
	ARC. A507. L	建築設計プラクティス F2A (Architectural Design Practice F2A)	0-0-2	C1M	D	
	ARC. A508. L	建築設計プラクティス F2B (Architectural Design Practice F2B)	0-0-4	C1M	D	
	ARC. D521. L	★ Architectural Workshop 2 (建築ワークショップ第二)	0-0-2	C1M	E	

上記科目の他、教養科目群キャリア科目から選択すること。（「IV. 教養科目群履修案内」参照）

科目体系図

黄塗は必修

緑塗は選択必修、又は選択



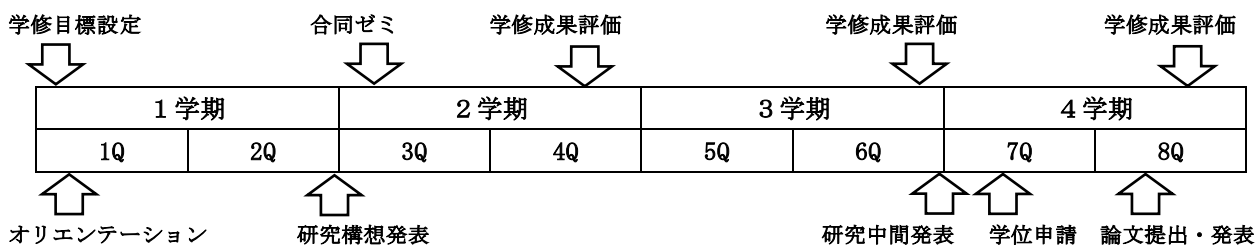
標準的履修例

赤字:必修科目, 黒字:選択科目, 色なしセル:400番台科目, 赤い枠内:500番台科目

科目区分	1年次				2年次				単位数
	第10	第20	第30	第40	第10	第20	第30	第40	
文系教養科目		リーダーシップ道場 1		ピアレビュー実践 1	世界を知る:ヨーロッパ 1				3
文系教養科目 文理横断科目									
キャリア科目	修士キャリアデザイン 1		Master's Technical Writing 1						2
専門科目	建築学特別実習S1 1		建築学特別実習F1 1		建築学特別実習S2 1				3
	建築意匠設計第一 2		建築意匠設計第二 2	建築意匠設計第三 2					6
	建築意匠特論 2	建築プログラム特論 2	Architectural Workshop 1 2		Architectural Workshop 2 2				8
		建築構想設計特論 2	建築ディテール特論 2						4
研究関連科目									0
講究科目	建築学講究S1 2		建築学講究F1 2		建築学講究S2 2		建築学講究F2 2		8
単位数	13		13		6		2		34
	26				8				

修士論文研究

修士論文研究（制作的研究を含む）では、課題の設定から、方法の検討、課題の解決に至る各段階の能力、及び研究を展開する能力の修得を目指し、成果を論文にまとめる。この過程において、学期毎に学修目標の設定と成果を評価しながら進め、最終試験の評価を受ける。



- 研究構想発表, 研究中間発表

キャリア形成の観点で自身の研究の背景, 目的等を明確に意識できるよう 2Qに「研究構想発表」, 6Qに「研究中間発表」を行う。

- 修士論文審査基準

修士学位論文は, 建築学の学術分野における新しい知見を含むか, または建築技術の発展に貢献する有用な知見を含み, 独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。

- 修士論文審査実施方法

審査委員会は 3 名以上の審査員で構成される。審査員による事前査読の後, 口頭発表を行って最終的な審査・評価を行う。博士後期課程に進学する者の審査は 5 名以上の審査員で行う。

【博士後期課程】

人材養成の目的

建築学における体系的な専門知識と幅広く深い理工系専門 学力を基盤として、建築学の発展を促す先端的な研究、創作、技術開発を推進し、国際的な視野に基づいて環境・社会問題の解決を図るリーダーシップ力を有する研究者、建築家、技術者を養成することを目的とする。

学修目標

本課程では、上記の目的の達成のために、次のような能力の修得を修士課程より高い基準で学修目標としている。

- ・ 建築学における体系化された幅広く深い専門知識をもとに新たな知見を創造、発信する能力
- ・ 建築学に関わる研究、創作、技術開発において、新たな課題を発見、探究する能力
- ・ 他者を指導できる科学・技術に関する知識と倫理を含めた教養力
- ・ 国際的に通用するリーダーシップ、マネジメントの能力
- ・ 国際的な場における論理的な説明、議論を可能とする語学力

学修内容

本課程では、「学修目標」で記載した「修得する能力」を身に付けるために、次のような内容の学修を行う。

A) 建築学分野の専門科目の学修

研究分野における世界水準の高度な専門性に加え、幅広い専門知識とともに、境界領域でも実践的に活動できる能力を身につける学修

B) 博士論文研究を進める学修

研究分野において世界適水準の研究を自ら構築し、実践する能力を修得するとともに、博士論文を執筆する学修

C) 論理的対話スキルを身につける学修

国際的活動の中で将来、リーダーとしての高度な専門知識に基づき論理的な説明、論述、議論ができる専門的コミュニケーション能力を修得する学修

修了要件

本コースの博士後期課程を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。

1. 24 単位以上を大学院授業科目（600 番台）から修得していること
2. 本コースで指定された授業科目において、次の要件を満たすこと
 - ・ 講究科目を 12 単位、修得していること
 - ・ 文系教養科目のうち 600 番台を 2 単位以上、キャリア科目から 4 単位以上を含み合計 6 単位以上修得していること。
3. 博士論文審査及び最終試験に合格すること

表D1に本コースにおける授業科目区分と博士後期課程修了に必要な単位数を示す。必要単位数は科目区分ごと、また科目群ごとに指定され、「必修科目単位」欄及び「選択科目単位」欄には科目選択にあたっての注記がある。「学修内容との関連」欄には科目と関連する学修内容を示す。履修申告にあたっては、科目と学修内容の関係を十分理解すること。

表D1 建築学コース博士後期課程修了要件

科目区分		必修科目単位	選択科目単位	単位数	学修内容との関連	備考
教養科目群	文系教養科目		2単位以上	6単位以上	C	後述のGAを原則として全て満たすこと。
	キャリア科目		4単位以上		C	
	その他					
専門科目群	講究科目	建築学講究 S3 建築学講究 F3 建築学講究 S4 建築学講究 F4 建築学講究 S5 建築学講究 F5 を各2単位、 合計12単位		コース標準学修課程の専門科目群から 12単位以上	B	
	研究関連科目				C	
	専門科目				A	
	コース標準学修課程以外の専門科目又は研究関連科目					
修了単位合計		上記の条件を満たし、24単位以上修得すること				

【備考】

- ・文系教養科目、キャリア科目の詳細は、「IV. 教養科目群履修案内」のそれぞれの章を参照すること。
- ・外国人留学生が受講可能である「日本語・日本文化科目」の授業科目を修得した場合、対応する番台の文系教養科目としてみなすことができる。

授業科目

表D2に本コースの博士後期課程における専門科目群の授業科目を示す。表右端の備考欄にコース名が記載されている科目については、本コースが指定する他コースの専門科目等を示し、修得した場合、「科目区分」欄に記載された、本コースの標準学修課程の「専門科目」、「研究関連科目」として取り扱われる。

表D2 建築学コース博士後期課程専門科目群

科目区分	科目コード	科目名	単位数	身に付ける力	学修内容	備考	
講 究 科 目	600 番台	ARC. Z691. R R ◎	建築学講究 S3 (Seminar in Architecture and Building Engineering S3)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	B	講義言語は研究室による
		ARC. Z692. R R ◎	建築学講究 F3 (Seminar in Architecture and Building Engineering F3)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	B	講義言語は研究室による
		ARC. Z693. R R ◎	建築学講究 S4 (Seminar in Architecture and Building Engineering S4)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	B	講義言語は研究室による
		ARC. Z694. R R ◎	建築学講究 F4 (Seminar in Architecture and Building Engineering F4)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	B	講義言語は研究室による
		ARC. Z695. R R ◎	建築学講究 S5 (Seminar in Architecture and Building Engineering S5)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	B	講義言語は研究室による
		ARC. Z696. R R ◎	建築学講究 F5 (Seminar in Architecture and Building Engineering F5)	0-2-0	1, 2, 3, 4, 5	B	講義言語は研究室による
研 究 関 連 科 目	600 番台	ARC. A621. L L 選 択	建築設計プラクティス S3A (Architectural Design Practice S3A)	0-0-2	1, 3, 4, 5	C	
		ARC. A622. L L 選 択	建築設計プラクティス S3B (Architectural Design Practice S3B)	0-0-4	1, 3, 4, 5	C	
		ARC. A623. L L 選 択	建築設計プラクティス F3A (Architectural Design Practice F3A)	0-0-2	1, 3, 4, 5	C	
		ARC. A624. L L 選 択	建築設計プラクティス F3B (Architectural Design Practice F3B)	0-0-4	1, 3, 4, 5	C	
専 門 科 目	600 番台	ARC. A601. L L 選 択	建築学特別プロジェクト S3・1 (Project in Architecture and Building Engineering S3・1)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	
		ARC. A602. L L 選 択	建築学特別プロジェクト S3・2 (Project in Architecture and Building Engineering S3・2)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	
		ARC. A603. L L 選 択	建築学特別プロジェクト F3・1 (Project in Architecture and Building Engineering F3・1)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	
		ARC. A604. L L 選	建築学特別プロジェクト F3・2 (Project in Architecture and Building Engineering F3・2)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	

		択	Building Engineering F3・2)				
	ARC. A605. L	L 選 択	建築学特別プロジェクト S4・1 (Project in Architecture and Building Engineering S4・1)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	
	ARC. A606. L	L 選 択	建築学特別プロジェクト S4・2 (Project in Architecture and Building Engineering S4・2)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	
	ARC. A607. L	L 選 択	建築学特別プロジェクト F4・1 (Project in Architecture and Building Engineering F4・1)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	
	ARC. A608. L	L 選 択	建築学特別プロジェクト F4・2 (Project in Architecture and Building Engineering F4・2)	0-0-1	1, 3, 4, 5	A	

- ・◎：必修科目，○選択必修科目，★英語で授業を行う科目，○：奇数年度英語開講科目，E：偶数年度英語開講科目
- ・□：学位プログラムとして特別に設けた教育課程「環境エネルギー協創教育課程」に対応する科目を表す。
- ・身に着ける力：1，専門力 2，教養力 3，コミュニケーション力 4，展開力（探究力又は設定力） 5，展開力（実践力又は解決力）
- ・備考：他）▲▲コース開講科目（カッコ内は開講元のコースにおける科目コード）
- ・科目コードにおける「分野コード」は次の通り。（ABC.D600.R の「D」の項目）A:共通科目群，D:建築史・建築意匠学，P:建築計画学，S:建築構造学・建築材料学，E:建築環境工学・建築設備学，Z:講究科目

本コースの博士後期課程修了要件に記されるキャリア科目については、「IV.教養科目群履修案内ーキャリア科目」の表 A-1 または A-2 に示されている Graduate Attributes (GA) を原則として全て満たし、4 単位以上の単位を修得しなければならない。GA の修得状況については、修了時にコースで判定する。複数の GA が対応する科目については、当該科目の単位を修得することでその科目に対応する全ての GA を満たしたものとみなされる。

【参考】キャリア科目の履修案内より

博士後期課程

表 A-1 アカデミックリーダー教育院（ALP）所属学生に求められる Graduate Attributes とは、次のとおりです。

A0D：自らのキャリアプランを明確に描き、アカデミアの分野でその実現に必要な能力を自己修習できる

A1D：現象の本質を見極め、学問の奥義を究めて、新たな学問領域・研究領域の開拓をリードできる

A2D：社会における学術の位置づけと責任ある研究活動の概念を理解し、ステークホルダーたる社会の構成員に学術の進展を適切に説明できる

A3D：研究者が担う役割と社会的責任を理解し、教育機関等において、学術に興味を持たせ、新たな学問領域・研究領域の開拓を担う後継を育成できる

表 A-2 プロダクティブリーダー教育院（PLP）所属学生に求められる Graduate Attributes とは、次のとおりです。

P0D：自らのキャリアプランを明確に描き、産業界等でその実現に必要な能力を自己修習できる

P1D：社会のニーズを的確に捉えて課題を見出し、責任ある研究活動を実践する上での法令・規則やポリシーに関する知識を持ち、将来の科学技術の発展をリードできる

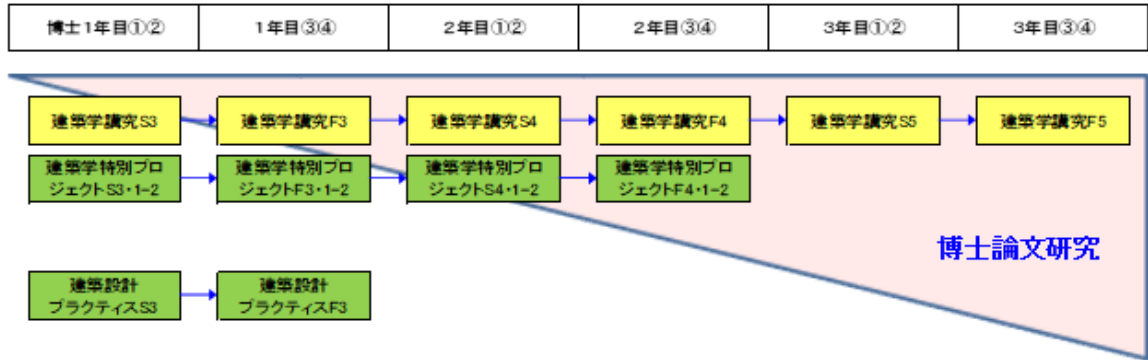
P2D：異なる専門性・価値観を有するメンバーからなるチームを率いて、社会に新たな価値を生み出すもの・ことを創造できる

P3D：技術者が担う役割と社会的責任を理解し、プロジェクトを通して次世代の社会や産業の発展を担う後継を育成できる

なお、リーディング大学院教育課程，リーダーシップ教育課程または卓越大学院教育課程を履修する者については、「IV. 教養科目群履修案内ーキャリア科目」に記載されている以外にキャリア科目とみなすことができる科目が用意されている場合がある。具体的な科目，履修要件等は，該当する教育課程の学修案内を参照のこと。

科目体系図

黄塗は必修 緑塗は選択必修、又は選択



標準の履修例

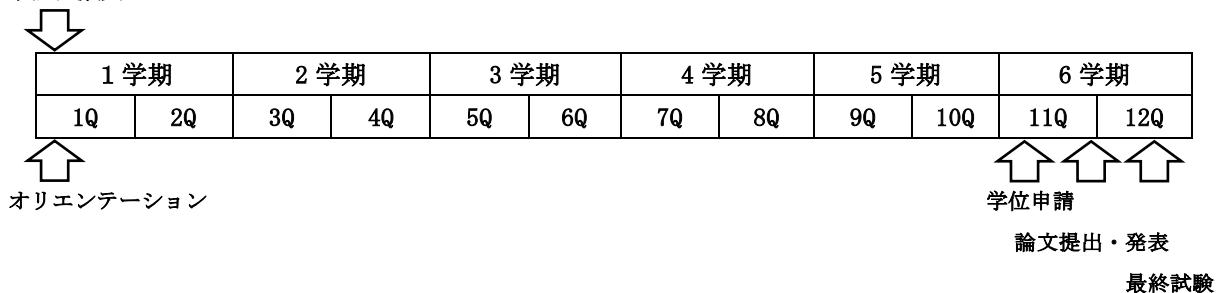
赤字:必修科目, 黒字:選択科目, 全C600番台科目

科目区分	1年次				2年次				3年次				単位数	
	第10	第20	第30	第40	第10	第20	第30	第40	第10	第20	第30	第40		
次亜数算科目	学生プロセス科目1	1	文系先端科目1	1										2
教養科目														
キャリア科目	博士キャリアデザインI	1	博士キャリアデザインII	1	ALP研修基礎	1	ALP研修1 (ティーチング)	1						4
専門科目	建築学特別プロジェクトS3-1	1	建築学特別プロジェクトS3-2	1	建築学特別プロジェクトF3-1	1	建築学特別プロジェクトF3-2	1						4
研究関連科目	建築設計プラクティスSSA	2												2
講究科目	建築学講究S3	2	建築学講究F3	2	建築学講究S4	2	建築学講究F4	2	数学講究S5	2	数学講究F5	2		12
単位数	10	15	5		3	5	2		2	4	2		24	

博士論文研究

博士論文研究では、課題の設定から、方法の検討、課題の解決に至る各段階の能力、及び研究を展開する能力の向上を目指し、成果を論文にまとめる。この過程において、学修目標の設定と成果の評価を経て、最終試験の評価を受ける。

学修目標設定



・博士論文審査基準

博士学位論文は、建築学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。

・博士論文審査実施方法

審査委員会は5名以上の審査員で構成されるものとし、他大学、研究機関及び企業等の外部審査員を積極的に含めることを推奨する。論文を提出し、口頭発表の後、審査員による事前査読を経て、最終的な審査・評価を行う。最終審査では、関連英語論文を読解させて、当該分野の理解能力を確認する。